

き日記を誌す中に入時十五分となり船は靜かに
纜を解いてリヴァプールに向ふ。平安な航海で

ある。(昭和七年七月十二日稿)

伊太利ところぐ (三四)

瀧川 規 一

「メヂチ家に對する陰謀と畫家ボチチエリ」
デウリアノは華やかな騎士でありフロレンス市
の寵兒である。時めくメヂチ家の偉大なるロレ
ンツオの弟でありフ市隨一の美人シモネッタを
人並優れた武藝の賞として獲ち得た果報者であ
る。然るに彼等夫婦には悲しき運命の目が來
た。シモネッタは肺患に仆れた。二ヶ年經て一
四七八年四月二十六日には不意に陰謀者の爲
めにデウリアノは刺れた。年來法王シクスタス
(Sixtus) 四世はメヂチ家を快しとしなかつた。
この意を汲んで法王の甥デオラモ・リアリオ(

Giuliano Riario) が直接の發頭人となつて陰謀
を廻らした。四月二十六日は日曜日であつてヅ
オモで例の如く彌撒の大禮拜が行はれた。ロレ
ンツオもデウリアノも禮拜に參加してゐた。禮
拜最中に陰謀者はメヂチ兄弟を襲つた。デウリ
アノは聖歌合唱隊の席上に追ひつめられて十九
ヶ所の貫通傷をうけて仆れた。ロレンツオは下
僕等にひきづられて聖器安置場に押入れられ有
名な彫刻家ルカ・デラ・ロビア (Luca della
Robbia) の施した彫刻のある青銅の扉を下僕等
が堅く閉して追求者を防いだ。其の爲めにロレ

ンツォは危険を免れた。この暴動を見てフ市の市民はロレンツォの周圍に集り暴動者を捕へた市民は憤つて陰謀者を死刑に處した。ピサの大僧正も亦公會堂の窓からぶら下つて絞刑に處せられた。羅馬の一カーデナルも亦幽閉された。反逆者は一々その肖像を公會堂の外壁に描かれた。斯くしてメデチ家倒壞の陰謀は不成功に終つた。法王は報復手段としてフ市を破門した。一四八〇年十二月に遂にこの破門が解かれたがその時法王がなした要求の第一條件は公會堂の壁にある陰謀者の肖像を排除することであつたこの肖像を描いた筆者は誰あらうボデチエリその人であつた。

ピチ美術館にはシモネッタの横顔がある。中世ロマンスとフ市隨一の美人を想ふ時この横顔に感興と連想とが湧き起る。

〔三博士の基督禮讃〕 これはウフィッツ美術館にあるボデチエリの有名な畫である。抑もボデチエリはこの畫題を好んだと見え同一畫題の

作品を澤山遺してゐる。畫題が同一であるが背景が各異つてゐる。岩石露出する荒野を背景としてゐるものもある。松林を背景としたものもある。アーチ及び記念塔を描いて羅馬を背景としてゐるものもあればまた海景を見せてゐるものもある。時にはメデチ家を讚美する爲めにこの畫題を利用し時にはサヴォナローラが説いた「地上の新ゼルサレム」を表現する爲めに利用してゐる。今この三博士禮讃の圖には基督と聖母とが中央の一段高い位置を占めてゐる。聖母の背後から頭を片手にもたせて覗んでゐるのは聖母の夫ゼヨセフである。多くの見物人は左右に分れて三博士を眺めてゐる。三博士その者は基督の足下に恭しく跪き黄金の小笥を持つてゐる。三博士の一人は金繡を施した黒綠色のマントルを纏つた溫顔の老人である。この老人はメデチ家の祖コシモである。長き旅路を経て目的地に到達し得た満足を表情にあらはしてゐる。また黒髪の顔立の大きい人が貂の毛皮で裏をつ

けた緋の衣を着て跪いてゐる。これはロレンツォの父ピエロ・イル・ポットン(Piero il Gottoso)である。最後に白衣を着けてピエロの右側に跪坐し他を顧みて何か言葉を云はんとしてゐる博士はコシモの末子デオヴァンニ(Giovanni)である。左手の隅に浮かぬ顔を見せて跪坐の博士の背後に立つてゐる黒髪の青年はデウリアノである。深紅の洞衣をつけ兩手で刀の柄を握つてゐるのがロレンツォである。多くの見物人中右隅に背の高い鼻の少し曲つた男が肩越しに見返へして鋭くにらみつけてゐる。蜜柑色の外套に身を包み髪は梳らず兩眼落ち窪み如何にも強さうな顔をしてゐる。この男は畫家自身である。これ等の人々が一見誰であるかは當時のフ市民には明かであつた。畫中にある横顔の男は誰、四分の三ばかりしか見せてゐない顔が誰と云ふやうなことは後世人には考證學者の説明によつて漸く知り得るのであるが、フ市の人々には何れも見馴れた顔であつた。當時の見物人は人物の

配置と共に各個性を發揮してゐるこれ等の顔を見て悦んだ。繪の描かれた動機については種々異説がある。ロレンツォが刺客の刃を免れ得た感謝の爲めにボチチェリに命じてこれを描かしめサンタ・マリア・ノヴェラ(Santa Maria Novella)に奉納したと云ふのが一説である。デオヴァンナ・ラム(Giordana Lami)と云ふフ市の金持の舊家の商人が祠堂の祭壇を裝飾する時メデチ家に敬意を拂つて特に斯く描かしたものであると云ふのが他の一説である。兎に角この繪はサンタ・マリア・ノヴェラの寺に十八世紀まで保管されて居り毎年一月六日の基督出顯節には祭壇の背後の壁をこの繪で飾つてゐたと云はれてゐる、今日美術館でメデチ家の有名な人々と並に畫家と同時にこの繪によつて接し得ることは都合がよい。

「プリマヴェラ」プリマヴェラ(Primavera)とは春の意である。ボチチェリがこの畫の構想をなすに當つては當時の風習と不可分の關係が

ある。抑も當時ロレンツォの周圍を圍繞する詩人哲學者等は何れも古代希臘に對する憧憬をもつてゐた。所謂文藝復興の空氣が充滿してゐた。フ市に來た畫家彫刻家等も亦この雰圍氣にあつて古代希臘に靈感を求めた。彫刻家ドナテロ (Donatello) がヴィア・ラルガ (Via Larga) の宮殿の内庭の裝飾を作つた時には古典物語から取材した。ポライウオリ兄弟はヘラクリスの力業を描いて其宮殿の壁を裝飾した。貴族が畫家に畫を求めるに當つてこれ等の哲學者詩人に相談をした。畫家も亦取材するに際し哲學者詩人の援助を求めた。ポチチエリは最初女性の裸體畫を多く描いた。いづれもカステロ (Castello) の別莊に保管され、そのうちでも、「微風によつて岸に吹き寄せられてゐる新しく生れたヴィナス」の裸體畫、グレースの三女神と共に花冠を戴き春を象徵するヴィナス」の繪は特に人目を惹く程光つてゐたと云はれてゐる。ポチチエリはこれ等多くの繪をメヂチ家の分家であるロレンツ

伊太利ところへ

オ・ヂ・ピェル・フランチエスコ (Lorenzo di Pier Francesco) の爲めに描いた。分家はフ市にあつて本家と共に銀行を營み、本家の爲めに屢財政的救助をなした。分家のロレンツォも亦本家のロレンツォと趣味を同じくし詩歌を作り藝術家學者を庇護した。カステロの別莊は丘陵上に建てられアルノ (Arno) 河畔の風景を見下ろし絶勝の眺をもつてゐる。本家のロレンツォをはじめフ市の才藝の士はこの館に屢集つた。詩人ポリチアノ (Polisano) は分家のロレンツォを作詩中に賞揚した。デウリアノの華やかな闘伎も亦この詩人の主題となつた。

美人シモネッタの魅力を讃へサイプラス (Cyprus) 島のヴィナスの園を説いて讚美した。分家のロレンツォに命じた時には詩人ポリチアノが畫題を暗示し内容の相談に與つた。ポリチアノはポチチエリのみならずマイケル・エンゼロにも主題を暗示してゐる。チエントールス (Centaur's) の戦鬪を表はしたマイケル・エンゼ

ロの浮彫はそれである。畫家デオット (Giotto) 及び畫家フラ・フィリッポ・リッピ (Fra Filippo Lippi) の墓碑銘は詩人ポリチアノの作つたものであり、ギランダヂョ (Ghirlandajo) がトルナブオニ (Tornabuoni) 家の爲にサンタ・マリア・ヌオヴァ寺に畫いた時に銘文を書いたのもこの詩人である。ボチチエリは春のこの繪を描くに當つて當時斯く名聲の高くあつた詩人の作品から材料を取つたことは異とするに足らない。

春の繪には蜜柑畑があつて果實が見事に熟してゐる。マートル樹がその周圍に繁つてゐる。中央には背高の威嚴のある女性が居る。これは愛の女王であつて白地に黄金の裝飾をなした衣裳を纏ひ片腕に赤いマントをもちて靜かに足を運んでゐる。膝一杯に薔薇の花を抱え軽く草の上に足を運び歩むに従つて花に花を蒔いてゐる。美しき乙女は春の女神である。春の女神は美しき頭髮に矢車菊と野菊とを花輪にして巻きつけ、白衣には凡ゆる花の模様があり、赤い蔦で

襟飾をつくつてゐる。春の女神の背後にはフロラ (Flora) といふ天精が居る。笑顔を作つて薔薇の荅とアネモネの花とを銜へて居るが花を唇から落し兩足を地から浮かせて逃げ仕度をしてゐる。逃げ腰をとつてゐるのはチエファ (Zephirus) と云ふ青衣の男神が居つて彼女を抱かんとするからである。本家のロレンツォ・マゲニフィコ (Magnifico) の戀愛詩中には男神の抱擁を避けんとする女神のことを述べてゐる。これと同一趣向である。左側に居る三人の徳の女神は透明なる白紗の衣を纏ひ互に腕を組み手をつないで露けき芝生の上で舞踏をしてゐる。美しき三女神の傍に翼を有するヘルメット帽を冠つてゐる頑強な青年が居る。黒髪のこの青年はマーキュリ (Mercury) であつて手に棒を持ち冬の雪を掃ひ除けて居る。これ等の人物の頭上に高く空中を飛んで黄金の矢をマーキュリの心臓をめがけて射んとしてゐる少年はキューピッドである。

愛の女神をはじめ春の女神、三徳の女神の顔

をよく見ると何れも年増女の顔であり何れも背がすらりと高く瘠せ形である。顔は長橢圓形であり感じやうによつては長過ぎ所謂馬顔に近い。お尻から腰にかけて肉附きが少く脚が長過ぎる感じがする。歌麿の美人の脚を想起さすものがある。身體に纏ふた衣裳は瘠せ形の肉體にまづはりついて乙女の軟かさと福やかさを欠いてゐる。ラファエルのマドンナの顔と肉體とは全く趣を異にしてゐる。

ラファエルのマドンナは處女らしい面影を留めて充分の軟かさがある。ポチチエリの女神には筋肉のひきしまりがある。顔も亦ラファエルのマドンナのあどけなさを失つて理智の相をあらはしてゐる。プリマヴェエラの繪の前に立つて自然の美を讃へ春の喜悅を鑑賞するには先づ畫家の腕を知る眼を必要とする。一度ポチチエリの繪の力を感じずる人はこの筆の力に魅了される。素人はこの繪を見て失望するかも知れない。ラファエルの繪に魅せられてもポチチエリの繪

には親しみ難いものがある。

それは繪にあらはれた筆者の個性であるか或は理智的であるか。年増女とは云ひながら若人と若葉や荅の表徴によつて五月の春の心は充分に畫家に溢れてゐる。

「パラス」パラス(Pallas)の繪は一四八〇年にフ市の平和が回復しメデチ家の支配が復活した記念にロレンツォの命によつてポチチエリが描いたものである。パラスは女神ながらチエンツールと云ふ半人半馬の怪神を屈服せしめて居る。チエンツールはホーマによればテツサリ(Thesealy)の山間に住み騎馬の蠻族である。パラスは白衣の上に緑のマントルを被つて矛と楯とを持つて居る。オリヅの樹枝を花冠とし金髪は風に吹かれてゐる。腕及び胸にもオリヅの枝を纏ひ蜜柑色のサンダルを足に履いてゐる。チエンツールは怪神と云ふものの詩人ダントなどの説明によつて想像するが如き醜惡な相を現はしてゐない。却つて老人の高貴さが窺

はれる。バラスは青春の力を神々しくあらはしてゐる。背景にはナポリの灣が描かれ船が波上に浮んでゐる。女神の背後には棚の如く岩が疊み重つてゐる。繪の内容は斯くの如く簡單であるが何を象徵する積りで畫家が筆を執つたか。チエントールはメヂチ家に對して陰謀を廻らした連中を象徵する。この連中は當時バッチ(Bacci)と總稱された。

この語の意味は馬鹿者と云ふ意である。チエントールを以て陰謀者を代表するとせばバラスは云ふ迄もなくメヂチ家を象徵したものである。バラスが頸の周圍に衣裳の裝飾としてつけてゐる三重のダイヤモンドの輪はメヂチ家が好んで用ひた意匠である。オリヅの樹枝は勿論勝利の象徴である。ナポリの灣はロレンツォがフェランテ(Ferrante)王の宮殿に至り一四八〇年二月使命を果してフ市に歸つた時市民の大歓迎を受けた史的事實を記念する爲めに背景に描いたのである。このバラスの女神の顔はどこと

なく「春」の愛の女神の顔に似た處があるが、バラスの顔には肥満の趣がある。一見忘れられぬ顔である。

〔ヴィナスの誕生〕 ヴィナスは海から生れてゼファスの軟い風に吹かれイージアン海の波の泡に載つて岸に着いた。天地は女神の到來を悦んで歌ふ。「時」の女神は肌白の四肢に星の衣を纏うて迎へる。

女神の足が一步踏み出す前に草原には百花繚亂として花が開いてゐる。繪のヴィナスは雪白の胸に片手を置き黄金の垂髪に他の片手をおいて處女の美と純潔とを示してゐる。兩脚を黄金の貝殻の上に載せて立ち漣漪の上を靜に漂うてゐる。空には有翼の風の神々が相連つてヴィナスを花咲く岸に吹き送つて居り薔薇の花が一つ／＼女神の身邊に散つて居る。

「時」の女神は穀物の花の刺繡を施した白衣を着ヴィナスに野菊で縫ふた淡紅のマントルを捧げてゐる。岸を見れば月桂樹があり禽鳥はタス

カニの春を囁つて居り、靜なる海の遙か彼處には曉の涼しき灰色の空の下に遠き海角が靜に眠つてゐる。風に吹かれた衣と落ち散る花と、細波の搖ぎとは風に搖らるる髪の毛と共に輕快なる動きを示し歓迎の天精の爽快なる動作と靜に在るヴィナスとは風の心地をよくあらはしてゐる。ポチチエリはこの女神程美しく麗はしく描いたことはないと言はれてゐる。從來の彼の女神に見出した堅さを去つて軟く何のこだわりもなく筆を運んでゐる。ポチチエリの女神に感心し得なかつた人もこのヴィナスの新生こそは非難を云ふまい。人間の女性を離れた神々しさを赤裸々に窺はんとするならば恐らくこのポチチエリの女神を除いて他に見出し得ないであらう。

新著紹介

○米國の政治組織及其活動

法學博士 大山卯次郎著
四六版二八八頁附錄三二頁 國際聯盟協會發行

新著紹介

定價壹圓貳拾錢

政治組織そのものの研究は地理學の直接對象とする處ではないかも知れぬが、種々の地理的現象に直接又は間接に影響する處は頗る大である。米國の地理が本邦の學者・教育者にとつて重要な位置を占めるにつけても、その政治組織と運用振とを簡明に論述した本書は我々にとつて頗る重寶なものである。著者は多年外交官として彼地に在りし人、先づ憲法の歴史的精神より始めて、合衆國と州 States との關係、三權分立主義や地方政治迄説明してある。所謂ヤンキー氣質の基づく所や現今やかましいモンロー主義・門戸開放機會均等から排日問題の經緯等についても系統的な知識を獲る事が出来る。卷末に附錄として合衆國の憲法が載せてある。各州が如何に合衆 union してゐるかを知らるゝ必要が地理學徒にもあると思はれるので、そろ／＼新刊でもなくなる本書を紹介する。(尾山生)

○鑛山の開發と經營

工學博士 山田復之助著 内田老鶴圃發行 二九七頁 定價三圓

鑛業は充分なる認識を得れば極めて安全に經營し得らるべきものである。著者は東京帝大鑛山學教室に於ける選鑛學講義、古河鑛業所に於ける三十年來の經驗に基いて、最近一ケ年間多少の心血を注いで本書を書いたと述べてゐる。記述の範圍は金銀銅鉛等の非鐵金屬鑛業を主とし、第一篇序論に於て鑛山の特性・鑛業失敗原因・鑛山の五時代(探鑛起業發展

七

七七